



# ランチョンセミナー2

## 『高齢者の転倒予防を生活から考える』

**座長** 安井 邦子 先生  
(京都第二赤十字病院 看護部長)

**日時** 平成26年2月15日(土)  
11:30～12:30

**演者** 山田 実 先生  
(京都大学大学院 医学研究科  
人間健康科学系専攻 助教)

**会場** 京都府民総合プラザ 京都テルサ  
セミナー室 (第2会場)

**定員** 140名

### ◆参加方法

本ランチョンセミナーは先着順にてご参加いただけます。  
11:10頃よりセミナー会場前にお越し下さい。  
直前のセッションにご参加の方は一旦会場の外まで  
本セミナー資料をお受け取りにお越し下さい。  
なお、無料で昼食をご用意しておりますが、  
数に限りがございますので、予めご了承ください。  
(学術集会への参加費は別途受付でお支払いください)

### セミナー要旨

高齢者の3人に1人が1年間に一回以上経験するとされる転倒は、主たる要介護要因の一つとして挙げられている。また、転倒に伴う医療費・介護給付費は1年間で9,000億円を越えるとの報告もあり、転倒を予防することは医療経済的側面からも重要である。

近年、幾つかの転倒予防介入に関するシステマティックレビューによって、転倒予防介入の有用性について報告されている。しかしながら、これらの報告は65歳以上の高齢者をひとまとめに“高齢者”として扱っていることから、全ての高齢者に汎用化されるとは言い難く有用になる機能レベルの高齢者もいれば、そうでない機能レベルの高齢者も含まれてしまう。

本講演では、各々の機能レベルに応じた転倒予防の必要性を解説するとともに、高齢者の生活という点にフォーカスを当て、日頃から行える転倒予防法を紹介したい。